

令和8年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号 31 学校名 郡上北高等学校

社会的役割等 (スクール・ミッション) 地域と連携・協働した学びを推進する連携型中高一貫教育を行う高校として一人一人の資質や能力、豊かな可能性を育む、きめ細かな教育活動を通して地域の伝統文化や産業を支え、地域の核となる人材の育成を目指す学校

学校教育目標 (教育方針) 生徒一人一人を大切にしたい信頼と愛情に基づき、常にほほえみと感動のある教育を目指し、日々の教育実践の中で、次の教育目標の達成に努める。
 (1) 基礎学力の定着を図るとともに、創造的思考力を育成する。
 (2) 体力・気力を養い、「不撓不屈」(校訓)の精神を育成する。
 (3) 礼儀を重んじ、社会秩序を守り、正しい行動ができる能力と態度を育成する。
 (4) 個性をのび、正しい職業観を身に付け、すすんで自己実現を図る態度を育成する。
 (5) 郷土や祖先を敬愛し、人間を尊重する精神を育成する。
 (6) 連携型中高一貫教育を推し進めるなかで、中学校とのさまざまな交流を通して「学力の向上」と「豊かな心の育成」を図る。

どんな生徒を育てたいか【GP】	「不撓不屈の精神で未来を切り拓く社会人」 ・自分のよさや可能性を知り、生涯を通して自らを高め続ける生徒 ・他者を尊重し、多様な人々と協働できる生徒 ・持続可能な社会の創り手となる課題解決能力をもった生徒
3つの方針 (スクールポリシー) 生徒をどう育てるか【CP】	・基礎学力を確実に育む授業の推進 ・自己実現への目標をもち、主体的に学べる学習環境の整備 ・自他の考えを認め合う姿勢を身に付け、新たな価値を生む力を育成するため、協働的な学習活動の工夫 ・ソーシャルスキル、課題解決能力、進路目標を実現する力を養うため、郡上市を学びの場とした探究的な学びや実社会に即した学びの推進
どんな生徒を待っているか【AP】	・自ら学び、自ら考え、主体的に行動しようとする生徒 ・多様な考えを取り入れ、もの見方や考え方を広げようとする生徒 ・地域活動に参加して、学んだことを実社会で活かそうとする生徒

学校の抱える課題
 ・生徒数減少に伴う今後の学校運営(部活動・学校行事等の在り方など)
 ・中学生以下の児童生徒数の減少に伴う入学者の減少(受検者数をどのように増やすか)
 ・国立大学受験から就職まで、生徒の多様な進路実現に係る効果的指導及び多系統の教育課程への対応
 ・継続的なデュアルシステムや探究活動への支援

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	1) 確かな学力をつけます ～基礎学力の定着を図るとともに、生涯にわたって探究を深めることができる学力を育成します～
	生徒指導	2) 共に生きる力を養います ～基本的生活習慣を身につけ集団の一員として規則やマナーを守り、相手の気持ちを考えて責任ある行動がとれる人材を育成します～
	進路指導	3) 自立する力を育てます ～1年生「自己理解」、2年生「自己啓発」、3年生「自己実現」という各年次の進路目標に従ってキャリア教育を推進し、自らの生き方を考えることができる生徒を育成します～
	特別活動	4) 地域社会の一員としての意識づけの向上を図ります ～地域の一員としての自覚をもって「ふるさと」を大切に育みます～

教育職員の業務量管理・健康確保措置の実施
 1) 出退勤管理システム「勤次郎」を活用し、校内の業務の改善に努める。
 2) 勤務時間のスライドを有効活用し、教職員の業務に合わせた柔軟な働き方を推進し、時間外在校等時間の抑制やワーク・ライフ・バランスの充実を図る。
 3) 早く家庭に帰る日、ノー残業デーは、管理職が職員に18時までの退勤を促し、退勤状況を確認する。

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	①少人数授業、習熟度授業を積極的に実施し、生徒一人ひとりに指導が行き届く授業を実施します。	施策Ⅱ-8	①授業評価アンケート「授業の内容が理解できている」の項目で「5」または「4」と回答する生徒90%以上				
	②「自学自習ノート」の取り組みを推進し、家庭学習習慣の確立と基礎学力の定着を図ります。	施策Ⅱ-8	②授業評価アンケートで「授業の内容に、興味・関心がある」の項目で「5」または「4」と回答する生徒90%以上				
	③家庭や地域に連携及び協働を求め、学んだことの意義を実感できる教育活動を行います。	施策Ⅰ-7	③授業評価アンケートで「先生の授業はわかりやすい」の項目で「5」または「4」と回答する生徒90%以上				
	④生徒の授業評価、及び教員相互による授業見学を年2回実施し、教員の授業改善及び授業力向上を図ります。	施策Ⅳ-26	④ICTに係るアンケートで「興味・関心」「理解の深まり」の項目で「5」または「4」と回答する生徒80%以上				
生徒指導	①登校時の校門指導において、遅刻防止を呼びかけるとともに、身だしなみ確認及び挨拶の励行を促します。	施策Ⅰ-2					
	②社会のルールの意義を理解させるため、毅然とした態度での指導を心がけ、生徒の規範意識を醸成します。	施策Ⅰ-2	①授業評価アンケートで「礼、服装、私語など授業規律が守られている」の項目で「5」または「4」と回答する生徒85%以上				
	③生活アンケート(年3回)・教育相談週間及び全ての教育活動を通して生徒の声を傾けて、生徒理解に努め、いじめのない学校を目指します。	施策Ⅰ-3	②特別指導件数0件 ③いじめの重大事態件数0件 ④登下校時の交通違反・マナー違反の苦情件数0件				
	④交通マナーの向上と、地域社会における交通安全意識の啓発(主体的な安全活動)	施策Ⅲ-19					
進路指導	①3年間を見通した進路指導計画に基づき、キャリア・パスポートを活用しながら、卒業後の進路希望に応じた進路指導を年次にあわせて行います。	施策Ⅱ-13					
	②地元企業や施設等の協力のもと、2年生全員のインターンシップを実施し、望ましい勤労観や職業観を育成します。	施策Ⅰ-4	①各年次最終進路希望調査で希望未定者0 ②卒業時の進路未定者0				
	③郡上市雇用対策協議会やハローワークと連携をとり、模擬面接や企業説明会等を実施し、高校卒業後、即戦力となる人材育成を行います。	施策Ⅱ-13	③就職者に占める地元就職率70%以上 ④進学希望者の進学決定率100%				
	④進学希望者に学校見学会への参加や進学ガイダンスを実施し、明確な進学目的をもった生徒を育成します。						
特別活動	①地域行事やボランティア活動に参加する機会を与え、地域社会の一員としての自覚をもたせ、地域社会人の育成に努めます。	施策Ⅰ-4	①地域行事またはボランティア活動に参加したことがある生徒70%以上				

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和9年 月 日 学校関係者評価 実施日：令和9年 月 日

--	--